

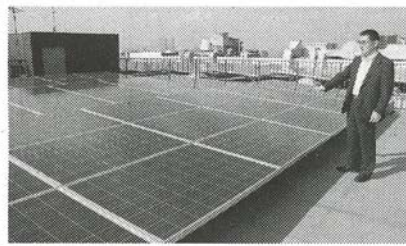
レザック 太陽光で電力20%カバー 本社工場 屋上に発電システム

太陽光発電で工場電力の20%弱をカバー。レザック(大阪府八尾市、柳本忠二社長、072・920・0394)は、抜き型用自動加工機を製造する本社工場で2月に設けた発電容量60キロワットの

太陽光発電システム(写真)の節電効果を調べた。月単位で関西電力の使用電力量や太陽光発電量などを集計。その結果2~7月度の検針期間に工場で使った電力量の16%を太陽光で賄えた

ことが分かった。同社は太陽光発電システムに約4500万円を投じ、多結晶型電池モジュール312枚を屋上全面に設置。中小製造業が集積する東部大阪地区では最大規模という。太陽

光発電の電力は工場の照明や生産設備などに利用する一方、休日の余剰電力は売電する。「コスト節約効果は売電分を含め年間170万円程度」(柳本社長)と試算する。



ただ、「太陽光発電は天候に左右され、曇天になると出力はすぐ5分の1ほどに減る。安定的に使うには蓄電池システムが必要」(同)と指摘。「まず1年間は記録をとって効果を検証し、機械稼働率との関連も調べたい」(同)と、太陽光発電を最適活用できるものづくりを進める。

工場屋上の全面に設置された太陽光パネルと柳本社長